

Aquirex フロア クリヤー・2液タイプ

---

仕 様 書

---

2 Pack Floor Paint Base | 313

2 Pack Floor Paint Hardener | 314

和信化学工業株式会社

---

年 月 日

---

## Aquirex フロア クリヤー・2液タイプ

2 Pack Floor Paint Base | 313

2 Pack Floor Paint Hardener | 314

Aquirex フロア クリヤー・2液タイプは、スポーツフロア用2液型水性ウレタン塗料です。2液タイプにすることにより、体育館など運動の場で優れた耐久性を發揮します。黄変せずに高光沢を持続する、性能重視のスポーツフロア用仕上げ剤です。無黄変タイプなので白いラインの色が映え、高光沢で美しい仕上がりが長期間持続し、メンテナンスも容易です。

### § ホルムアルデヒド放散等級

F (日本塗料工業会登録 W01375)

### § 特長

水性タイプの為、火気の心配がありません。  
臭気が少なく作業中でも気になりません。  
厚生労働省指定の毒物・劇物、消防法の危険物に該当しません。  
(キシレン、トルエン、エチルベンゼン、ホルムアルデヒドを使用していません。)  
硬化剤は危険物となります。  
溶剤系ウレタン塗料に近い性能を持っており、耐溶剤性や耐ラバーマーク性に優れ、強靱な塗膜を長期間維持します。  
無黄変タイプなので油変性ウレタンのように塗膜が黄変することはありません。  
体育館の白いラインの上に塗装しても、白色が黄味を帯びることはありません。

国土交通省「改正建築基準法」	適合
厚生労働省「室内空気汚染に係るガイドライン」	適合
文部科学省「学校環境衛生基準」	適合
東京都環境局「子どもガイドライン」	適合

### § 用途

スポーツ施設・文教施設・店舗・一般住宅など広範囲木質フロア用仕上げ剤

### § 使用方法

1. 使用前に主剤をよく攪拌して下さい。
2. 主剤に専用硬化剤を添加し(主剤:専用硬化剤 = 10:1 重量比)、よく振って均一に混ぜ合わせます。もしくは缶の天面を切り、ハンドミキサーでよく攪拌して下さい。(その際に必ず均一に混ざっているかどうか、別容器に移すなどして確認して下さい。混ざりが悪いと底の方に透明なツブ状のものが沈殿します。)  
その後、15分程度放置して泡を抜いて下さい。  
機械攪拌の場合は泡が立ちにくいように丁寧に攪拌して下さい。
3. 基本的には原液でお使い下さい。乾燥が早く塗りにくい場合などは水で希釈して下さい。(希釈しすぎると肉持ちや光沢が得られない事がありますのでご注意下さい)
4. 混合後の塗料の可使用時間は約3時間です。(高温になる夏場は短くなります。)

主剤と硬化剤の混合比、可使用時間を厳守して下さい。性能低下の原因となります。  
(**可使用時間が過ぎてもゲル化しない場合もありますのでご注意下さい。**)  
使用の前には本書後半にある「§ 使用上の注意」を必ずお読み下さい。

## § 塗料性状

外 観	主 剤 ; 乳白色 専用硬化剤; 無色透明	目視
粘 度	16 秒 ± 2 秒	混合後 4 フォードカップ / 25
密 度	1.06 ± 0.02	混合後 ウェイトカップ / 25
不揮発分	40%	混合後 計算値
凍結安定性	主 剤 ; 異常なし 専用硬化剤; 異常なし	-10 ~ 室温 凍結融解 5 サイクル
保管安定性	主 剤 ; 異常なし 専用硬化剤; 異常なし	50 1 ヶ月保管

## § 乾燥性目安

標準塗布量 80 ~ 90g / m<sup>2</sup>  
乾燥時間指触 30 分、指圧 4 時間 (気温/湿度、20 / 50%)

条件によって乾燥状況は変わりますので目安として下さい。

## § 塗膜性能

カバ合板 3 回塗り 7 日間養生

項 目	結 果	備 考
耐酸性	○	5%酢酸水 スポットテスト 24 時間
耐アルカリ性	○	5%炭酸ナトリウム水 スポットテスト 24 時間
耐水性	○	水道水 スポットテスト 24 時間
耐アルコール性	○	60%エタノール水 スポットテスト 24 時間
耐溶剤性	○	塗料用うすめ液 スポットテスト 24 時間
	○	キシレン スポットテスト 24 時間
耐マジック性	黒 赤	24 時間後ベンジン拭き取り
耐クレヨン性	黒○ 赤○	24 時間後ベンジン拭き取り
耐インキ性	黒 赤 ×	スポットテスト 24 時間
耐湿熱性	○	300 cc 沸騰水入りビーカー 1 時間放置
鉛筆硬度	F	ガラス板 5 ミル 20 / 60%にて 14 日養生
床スベリ性	0.33	JIS-A-1407
耐摩耗性	17mg	テーバー摩耗試験 CS-17 1kg 荷重 1000 回

## § 各種塗膜との密着性

塗料名	Aquarex フロア クリヤー ・2液タイプが上塗りの時		Aquarex フロア クリヤー ・2液タイプが下塗りの時	
	研磨有り	研磨無し	研磨有り	研磨無し
Aquarex ポアーステイン 各色 原液 拭き取りあり 原液/水 = 1/1 拭き取りあり			-	-
Aquarex 水性オイルステイン 各色			-	-
Aquarex ウッドシーラー				
Aquarex サンディング	×	×		
Aquarex 木部用ウレタン 各ツヤ				
Aquarex フロア クリヤー				
ワシン エコステイン 各色			-	-

「Aquarex フロア クリヤー・2液タイプ」が下塗りで「溶剤系塗料」が上塗りの場合は、リフティングの可能性があるので出来るだけ控えて下さい。

実際には素材、塗布量、塗り重ねる時間、その他の条件などで変わることがありますので塗布する前に確認することをお薦めします。

## § 塗装工程(例)

### 1. 体育館 フロア塗装 (リフォーム塗装)

工程	使用塗料	塗布量	乾燥時間	備考
研 磨	#120 ~ #180 メッシュ			ポリッシャー
上塗り	Aquarex フロア クリヤー・2液タイプ 主 剤 100 専用硬化剤 10 水 0 ~ 5	80 ~ 90g/m <sup>2</sup>	一夜放置	T-bar もしくは 短毛ムートン

塗装翌日の歩行は可能ですが、競技使用には10日~2週間程度養生が必要です。  
(低温時での施工は、養生期間が短い場合、特にラバーマークが付きやすくなりますので、ご注意下さい。)

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので、目安として下さい。

2-1 体育館 新規フロア塗装(Aqurex フロア クリヤー・2液タイプのみ仕上げ)

工 程	使用塗料	塗布量	乾燥時間	備 考
素地調整	#80～#100 メッシュ			ポリッシャー
下塗り	Aqurex フロア クリヤー・2液タイプ 主 剤 100 専用硬化剤 10 水 0～5	80～90g/m <sup>2</sup>	4時間以上	T-bar もしくは 短毛ムートン
研 磨	#120～#180 メッシュ			ポリッシャー
中塗り	Aqurex フロア クリヤー・2液タイプ 主 剤 100 専用硬化剤 10 水 0～5	80～90g/m <sup>2</sup>	4時間以上	T-bar もしくは 短毛ムートン
研 磨	#120～#180 メッシュ			ポリッシャー
ライン塗装	必要に応じてライン塗装を行います			
上塗り	Aqurex フロア クリヤー・2液タイプ 主 剤 100 専用硬化剤 10 水 0～5	80～90g/m <sup>2</sup>	一夜放置	T-bar もしくは 短毛ムートン
研 磨	#120～#180 メッシュ			ポリッシャー
上塗り	Aqurex フロア クリヤー・2液タイプ 主 剤 100 専用硬化剤 10 水 0～5	80～90g/m <sup>2</sup>	一夜放置	T-bar もしくは 短毛ムートン

塗装翌日の歩行は可能ですが、競技使用には10日～2週間程度養生が必要です。  
(低温時での施工は、養生期間が短い場合、特にラバーマークがつきやすくなります  
ので、ご注意下さい。)

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので、目安として下さい。

## 2-2 体育館 新規フロア塗装（1液タイプとの工程組み仕上げ）

4回塗装を行う場合は、下塗り、中塗りに水性1液型塗料「Aquirex フロア クリヤー」を使用することが出来ます。

工 程	使用塗料	塗布量	乾燥時間	備 考
素地調整	#80～#100 メッシュ			ポリッシャー
下塗り	Aquirex フロア クリヤー 水	100 0～5	80～100g/m <sup>2</sup>	4時間以上 T-bar もしくは 短毛ムートン
研 磨	#120～#180 メッシュ			ポリッシャー
中塗り1	Aquirex フロア クリヤー 水	100 0～5	80～100g/m <sup>2</sup>	4時間以上 T-bar もしくは 短毛ムートン
研 磨	#120～#180 メッシュ			ポリッシャー
中塗り2	Aquirex フロア クリヤー 水	100 0～5	80～100g/m <sup>2</sup>	4時間以上 T-bar もしくは 短毛ムートン
研 磨	#120～#180 メッシュ			ポリッシャー
ライン塗装	必要に応じてライン塗装を行います			
上塗り	Aquirex フロア クリヤー・2液タイプ 主 剤 100 専用硬化剤 10 水 0～5	80～90g/m <sup>2</sup>	一夜放置	T-bar もしくは 短毛ムートン

塗装翌日の歩行は可能ですが、競技使用には10日～2週間程度養生が必要です。（低温時での施工は、養生期間が短い場合、特にラバーマークがつきやすくなりますので、ご注意下さい。）

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので、目安として下さい。

木床がナラ材の場合、アク汚染が発生する場合がありますので、下塗りには「Aquirex ウッドシーラー」のご使用をお勧めします。

### 3-1 体育館以外の木質フロア塗装（オール水性仕上げ）

工程	使用塗料	塗布量	乾燥時間	備考
素地調整	#80～#100 メッシュ			ポリッシャー
着色	Aquirex ポアーステイン 各色 50 水 50	60g/m <sup>2</sup> <u>塗装後すぐに</u> ウエス等で <u>拭き取り</u>	1時間以上	刷毛
下塗り	Aquirex フロア クリヤー・2液タイプ 主剤 100 専用硬化剤 10 水 0～5	80～90g/m <sup>2</sup>	4時間以上	T-bar もしくは 短毛ムートン
研磨	#120～#180 メッシュ			ポリッシャー
上塗り	Aquirex フロア クリヤー・2液タイプ 主剤 100 専用硬化剤 10 水 0～5	80～90g/m <sup>2</sup>	一夜放置	T-bar もしくは 短毛ムートン

Aquirex ポアーステインの原液使用や、拭き取りなしの仕上がりでは密着しない場合がありますので避けて下さい。

塗装翌日の歩行は可能ですが激しい運動などは避けて下さい。

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので、目安として下さい。

### 3-2 体育館以外の木質フロア塗装（着色のみ溶剤系オイルステイン仕上げ）

工程	使用塗料	塗布量	乾燥時間	備考
素地調整	#80～#100 メッシュ			ポリッシャー
着色	ワシン エコステイン 各色	50～80g/m <sup>2</sup> <u>塗装後すぐに</u> ウエス等で <u>拭き取り</u>	4時間以上	刷毛
下塗り	Aquirex フロア クリヤー・2液タイプ 主剤 100 専用硬化剤 10 水 0～5	80～90g/m <sup>2</sup>	4時間以上	T-bar もしくは 短毛ムートン
研磨	#120～#180 メッシュ			ポリッシャー
上塗り	Aquirex フロア クリヤー・2液タイプ 主剤 100 専用硬化剤 10 水 0～5	80～90g/m <sup>2</sup>	一夜放置	T-bar もしくは 短毛ムートン

ワシン エコステイン 各色を拭き取ったウエスの処理にご注意下さい。（塗料の付着した布切れなどを積み重ねて放置すると、自然発火することがありますのでその都度焼却するか廃棄するまで水につけておいて下さい。

塗装翌日の歩行は可能ですが激しい運動などは避けて下さい。

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので、目安として下さい。

## § 使用上の注意

5 以下での塗装や、多湿時の塗装は乾燥時間が極端に遅れるだけでなく、仕上がりが悪くなり、求める塗膜性能が出にくくなる場合がありますので、避けて下さい。(特に低温での塗装では耐ラバーマーク性が出にくくなります。)

主剤と専用硬化剤を混入後、缶をよく振って均一に混ぜ合わせた後、もしくはハンドディスペンダーでしっかり攪拌した後 15 分程度放置し泡を抜いてから塗装作業を行って下さい。

主剤と専用硬化剤の混合した、この塗料の可使用時間は約 3 時間(20 )です。必ず可使用時間内に塗装作業を完了して下さい。

専用硬化剤は「第 4 類 第 2 石油類」の危険物となりますので消防法に従ってお取り扱い下さい。また、空気中の湿気と反応して増粘しますので、使用分だけを取り出して直ちに密栓して下さい。

本品主剤は水性塗料でありますので低温時には凍結します。凍結させますと外観が正常な状態に戻らなくなる可能性がある他、外観に問題がなくても塗膜性能が極端に低下している場合があります。0 以下の場所での保管を避け、凍結させないように注意して下さい。また、しっかりとフタをし、直射日光を避けて保管して下さい。

刷毛などの塗装器具の洗浄は、乾かぬうちに水でよく洗って下さい。乾いてしまうと水では落ちませんので、ご注意下さい。

作業中や養生中はできるだけ換気を良くして下さい。また、上塗塗料の養生時にはゴミの付着に注意して下さい。

取り扱い中は、塗料ができるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護具などを着用して下さい。皮膚などに付着した場合には、多量の石鹼水で洗い落とし、痛みまたは外見に変化があるときには、医師の診察を受けて下さい。

目に入った場合には多量の水で洗い、直ちに医師の診察を受けて下さい。誤って飲み込んだ場合も、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。

子供の手の届かないところに保管して下さい。

残塗料及び洗浄廃液は、河川・下水などに捨てず、中身を使いきってから廃棄して下さい。

本来の用途以外には使用しないで下さい。

更に詳細な内容が必要な場合には、安全データシート(SDS)をご参照下さい。